

郷土研究

岐阜

第144号



退任にあたって

早川 万年

令和七年七月の総会でもって、わたしは三期六年間にわたる本会会長を退任いたしました。この間、会の活動を支えてくださった岐阜県図書館長をはじめ、館の職員の皆様、そして役員・会員の皆様に深くお礼申し上げます。わたくしの任期中には、新型コロナウイルス感染症の流行があり、総会の開催を含め、悩ましい事態が続きました。そのなかでも、県図書館関係者等、各位の真摯なご協力によって、会の活動を維持できましたこと、ここに改めて感謝申し上げます。

一方、令和五年七月には、本会創立五十周年記念論集を刊行することができました。黒田隆志担当役員のもと、三十四編の論説・研究ノート等を収載でき、五十年という一つの節目を迎えるにふさわしい事業となりました。会員の日頃の研究成果発表の場を設けるのは、調査・研究を目的とする団体として不可欠の取り組みです。五十年の長き歳月を重ねて本会の活動が維持されたこととともに、今回、岐阜県を視

野に入れた多くの成果が示されたことは、やはり会員皆さんの熱意の賜物です。執筆いただいた方はもちろん、今般は原稿を頂戴できなかった方も、是非とも研究を継続していただき、改めてその成果を会誌にお寄せいただければと思っています。

さて、コロナ禍を経て、図書館・公民館等の公共機関の利用状況も、現今は回復しつつあると推測されますが、いわゆる自粛期間は、本会のような地方の研究団体においても、その活動のあり方が模索される機会となりました。先行きの不透明な感染症拡大のなかで、多数の集まる場を設けることは困難であり、調査に出かけることさえ躊躇される状況でした。限られた条件のなかでわれわれは何にどう取り組むのか、さらには目指すものがいったい何であるのかが改めて問われるように感じました。

このことは、コロナ禍の間にとどまる問題ではありません。興味や関心を同じくする仲間たちの親睦の場を維持

することはむろん大事ですが、われわれは、公的機関に事務局を置く、学術研究団体という性格を有しています。互いに研鑽を積みつつ、着実な研究成果を示すことも求められています。

現状を申しますと、残念ながら本会の会員数は減少しています。コロナ禍の影響もありましたが、とくに入会者の減少はかねてからの問題でした。皆さんご承知の通り、会誌や復刻資料の刊行、講演会の開催等には経費が必要であって、会員数の減少は会費収入減に直結します。じつは、全国的に見ても、主に個人会員の会費に依存する地方研究団体の運営は、現在、岐路に差し掛かっているケースが少なくありません。そのなかで本会はどうのような将来像を描けばよいのでしょうか。もちろん、会誌の内容が豊かであって、会の活動が魅力あるものでなければなりません。そのためには、より多くの会員による会の活性化が不可欠です。そして、本会が郷土研究を眼目とする以上、やはり郷土の文化振興に少しでも貢献することが求められます。

地理・歴史・自然・経済・文芸等、われわれの入り口は多様です。また、福祉や医療、防災、人口減少といったことがらも、地域、すなわち郷土の喫緊の課題です。それらが重要であるからこそ、学問的な方法で関連データを分析・検討しなくてはなりません。

目次

退任にあたって	早川万年	1
会長就任にあたって	黒田隆志	2
西濃地域の松坂踊り (一)	岡田吉孝	3
美濃国山県郡高富町天王町「山口彌重文書」資料その六	松尾隆	10
「美江寺合戦」に関する一考察 (上)	宮野宣康	16
地区情報		
(西濃)児玉 剛		21
(美濃)岩井 彩乃 (飛騨)茂住 修史		22
郷土関係新刊書目録		23
郷土関係逐次刊行物文献目録		26

郷土研究・岐阜 第一四四号
令和7年9月20日 発行
編集・発行 岐阜県郷土資料研究協議会
(会長 黒田隆志)
岐阜市宇佐四一一一 県図書館内
電 話 〇五八―二七五―五一一一
FAX 〇五八―二七五―五一一五
E-mail kyoshike@library.pref.gifu.jp
銀行振込 大垣共立銀行県庁前支店
(普) 289660
郵便振替 00860-0-412260
普通会員 2800円
賛助会員 4000円
年度会費
(印刷 浅野印刷株式会社)